

栃木県議会議員

平木ちさこ 活動レポート

元気ネット

発行
平木ちさこ
事務所
〒321-1274 栃木県日光市土沢1962
TEL 0288-26-6739
FAX 0288-26-6759
Eメール hiraki-chisako@nifty.com

ホームページ <http://hirakichisako.com> (奇数月末日更新)

目 日光市も栃木県全体も耕作面積の約8割が水田となっている。土地改良はかんがい排水や圃場整備事業を推進し、農業農村の維持保全に大きな役割を果たしている。

県営圃場整備制度は昭和38年、宇都宮の南部地区で始まった。その後、50年代に氏家、高根沢が手を挙げ、今市では平成9年から岩崎、中猪倉、田川沿岸、芹沼の順で始まった。

*

地 形にもよるが、工事費は反当たり150万から200万円。費用は国が50%、県が30%、日光市が10%、農家が10%となっている。

米づくりにも 高齢化・集約化が!



栃木県の圃場整備率は67.5%、日光市は33.9%と低い。その理由は、農地が急峻であったり、狭かったり、小規模な改良をすでに行なっていたり。にもかかわらずそれらを分母となる農業振興用地にカウントするため、その面積は3,134haと広く、なかなか整備率が上がらない。

昨年は、11年ほどかかって小倉、小代、明神地区の整備が完成した。現在は、大桑、大室が換地終了、矢野口、田川上流、山口が整備中、薄井沢、沢又がそれらに続いている。

一面を広く整備することで生産性向上、大型農機の導入による労力の節減をしてゆくが、維持管理をいかにやっていくかも課題となっている。

*

農 家の高齢化も進み、県内農地の担い手への農地集積・集約化は29年度までに47%まで進んだ。県では5年後までに80% (12万5,500ha中10万ha)をめざしている。ちなみに日光市の集約化は40.9% (5,430ha中2,219ha)、担い手の核となる認定農業者数は、県内で8,086人。(内法人数は350)、日光市は同254人(同16)となっている。が、担い手の高齢化も進む一方で、集積が進むということは同時に農業者の人手が減り、畔の草刈りなどに支障も懸念されている。

県では、地域で行う草刈りや用水路の泥上げ等の保全に支払われる多面的機能支払い事業の新規受け付けも30年度から再開して行く。

炎天下で草刈りをしている農家の方々を見るに付け、手を汚さずに頂くばかりで申し訳ないのだけれど、お米は本当に美味しい。

今も昔も塩にぎりはお米の美味しさを良く引き立てる。お米を食べるとなぜか落ち着くから不思議だ。



今市地区田川上流

県営圃場整備は最低20ha以上の面積が必要となっているが、昨年5月の土地改良法の一部改正では、対象面積は最低10ha以上と、面積は半分に緩和された。加えて中間管理機構に15年以上貸し付けることを条件に、工事費は国と県と市で100%、農業者の負担は0となる。国としては、一気に集積を加速させたい意向だ。

最前線で危機に直面、向かい風を正面から受ける!

～ 長谷川ひろし、かく語りき ～

今ひとたび歴史を振り返る ～日光大好き!～

2 年前のこと、当時、小学3年生だった娘さんと、日光について話し合うことがよくあった。

もう少し日光を知るにはどうしたらいいかなあ? 江戸時代の人たちは日光に到着した時にどんな風に感動したのだろう? と、2人で考えているうちに、そうだ! 昔の人と同じように、日光街道の起点・お江戸日本橋から日光東照宮まで歩いてみようか! ということに。そしてほんとにやってみた。

江戸時代、人々は7日間の休みを取って、行きに3日かけて歩き、中1日に東照宮にお参りをしてお土産に羊羹を買い、また3日かけて歩いて江戸に帰ったという。

とにかく歩いてみよう! と、親子は電車で日本橋へ。

それからトコトコと日光に向けて歩き始め、行きは電車、帰りは歩きという日帰りの行脚を繰り返した。1日にだいたい4里(16km=二宿場町)をめどに、通算9日、薬局の仕事や活動の合間を縫っては、2年間かけて日本橋から東照宮に辿り着いたという。

裏面に続く

いやはや、そこまでやったか！

娘さんにとっても先人の想いや、かけがいの無いものをたくさん学んだ素晴らしい旅となり、彼にとっても最後までともに歩いた娘さんに感謝と感動、そして日光街道から大きな力をもらったのだろう。

ちょっとふざけているけど面白い

足尾は銅山の町、その銅に因んで、足尾に世界のオリンピックやパラリンピックの銅メダルを獲得した人たちを呼んで、お祭りをやることを彼は考えている。

あはは、と思うけれど私が市議の頃、大分県の湯布院に視察に行かせて頂いたことがある。町の課長さんが、何とかこの町に人を呼びたいと考えて、まず始めたのが大声大会。県から音量測定器を借りて来てやろうとしたら、周囲や上司から、そんなのー！と非難を浴びた。

それでもやりたくてやっと大声大会の開催にこぎ着けた。やってみたら多くの若い人たちが来て、それから映画祭や音楽祭へと発展させて今日に至ったという。

*

足尾には私自身も思い出がある。3人の子どもたちが高校3年生で我が家を巣立つ際、それぞれ足尾銅山の跡地・銅山観光に連れて行った。言葉は要らない。とにかく何故か見せておきたかった。

鉱夫さんたちはアルマイトで出来た大きな厚みのあるドカベンを2つ持って、銅山の中に入って2食をその水のしたたる薄暗い坑道の中で食べたという。

外に出ると6畳と3畳の部屋に6人が暮らしていたという長屋住まい。今でもその廃墟のトイレには鹿が塩をなめに来るといふ。

銅メダルを持って足尾に結集！ 鉱夫さんたちもきっと喜んでくれるんじゃないかな。マラソンでも何でもいい、銅メダルを持っている人たちには是非、鉱道に入って見て欲しい。ペラペラの英語で銅メダリストたちを案内する彼の姿はカッコイイだろうな。銅メダル、一番じゃなくてもいいじゃないか。

あ！ 一番じゃなきゃ駄目なこともある……。



◀足尾銅山観光では当時の辛く厳しい鉱石採掘の様子をリアルな人形で再現している

*

ほんわかとした日光と足尾の話だが、高齢化の中、現実の日常生活はなかなか厳しい。

様々な問題を抱え、市民を守るために果敢に切り拓いて行かねばならないポスト。先輩を差し置いて高校1年生の時から3年間、鹿沼高校で生徒会長をやったという。

首をかしげたくなるが、その会長のもとで副会長をずっと一緒にやってきたという彼の友人に、偶然出会った。この人もまた限りなく明るく柔らかな青年だった。

若い人たちには敵わない。

悲壮感も、てらいも、気負いもない。

最前線で危機に直面しても向かい風にあっても普通にスルーするしなやかさを感じる。おまけに、突っついてみても決して愚痴を言わない。実に不思議な……。

こんな私で悪いけれど、懲りもせず期待している。

余話

彼の車の片隅に月刊「文藝春秋」と「日経グローバル」を発見！ 後者は分かるが、文藝春秋？

小学校の時、先生に新聞記者になれ、と言われたことがあったそうだ。子どもの頃から読み書きが好きだったらしい。

私も「春秋」といえば広告のページがとても好きで、よくその洗練された美しさにじーっと見惚れている。

4・5月の催し

※会場はいずれも平木事務所です

元気会 毎月第1土曜日 10時～11時30分

日時▶ 5月5日(土) ※4月は中止
●会場：元気ネット事務所(日光市土沢1962)

女性の茶話会 毎月第1水曜日 19時～21時

日時▶ 5月2日(水) ※4月は中止
●会場：元気ネット事務所(日光市土沢1962)
●参加費：300円(軽食付き)
●申込み：☎0288-26-6739(前日まで)

県政について、みなさんのご意見をお寄せください。



[Eメール] hiraki-chisako@nifty.com

※平木ちさこの「元気ネット」ホームページは奇数月末日更新です。

※平木ちさこ公式サイト <http://hirakichisako.com>

平木ちさこ 検索



初めての方もどうぞお気軽にお出掛け下さい



お花見会のお知らせ

日時▶ 4月21日(土) 11時～14時
●会場：元気ネット事務所前(日光市土沢1962)
●参加費：1,000円
●申込み：☎0288-26-6739
●締切：4月18日(木)

お誘い合わせの上、いらして下さい。

※平木ちさこは、HP公式サイトまたはFBに、「今日の活動」を毎日アップしています。どうぞご覧ください。(平木ちさこで検索してください)